

黒龍江省の農村部における農業改革前の小学教育の普及

川 副 延 生

要旨

64年から推進された半農半読の教育制度により、公弁および民弁の全日制小学のほかに半農半読の耕読小学が設立され、さらに多様な教育形式が取り入れられて多くの農民の子弟に学校教育が広がった。農村では教師が不足したが、上山下郷で農村に送られていた都市の知識青年がその任の一翼を担った。

1 先行研究

半農半読の教育制度と小学教育の普及についての先行研究として、1985年の山本論文がある。(山本恒人「1960年代における労働・教育・下放の三位一体的政策展開とその破産」)本章では先行研究の紹介として、山本論文のなかで半農半読の教育制度と小学教育の普及について記述してある部分と、知識青年の下放について記述してある部分([1] p.182-187)をほぼそのまま抜き出して、1.1節から1.5節に分けて記述する。

1.1 農村教育調査による小学教育の普及状況

1964年に北京師範大学により行われた農村教育調査によると、農村には2つの現象がある。1つは広範な農民が文化的翻身を強く願い、子弟に十分な学習の機会が与えられることを希望している。もう1つは、一方で農村の多くの地区では全日制小中学の募集定員が満たされず、生徒の中退などの流動現象が深刻な問題になっている。農村経済・農村生活が困難なために学齢に達した児童も、補助的労働に参加して家計負担を分担しなければならず、全日制学校に通学している余裕がないからである。

1.2 山西省長治県の小学教育の普及状況、

1965年の時点で山西省長治県では、一般に初級小学と高級小学を兼ね備えた完全小学は大きな村にあり、各村は初級小学しかもっていない。85%の村には完全小学がなく、幾里も離れた高級小学に通学するには3つの恐れ(雪・河・狼)がある。したがって小学校に入学をしても6年間は続けられない。

64年と65年の学年初めの調査では、初級小学4年卒業生6100人のうち、高級小学に入学したものは3700人(65%)にとどまり、貧農・下層中農の子弟で高級小学に入学したのは52%にすぎなかった。高級小学入学者も中退者が多く、賈掌・東和の2小学校では62年の高級小学入学者のうち64年夏の卒業者は120人(66%)だったという。つまり農村では小学教育が相当に普及したとはいうものの、それは初級小学段階までで、高級小学になると入学率は大幅に減り、高級小学卒業率はさらに低くならざるをえなかった。

耕読小学や耕読班が辺鄙な農村に設立され、とりわけ小学教育の後期2年（高級小学）を補う形で各村に設立されていき農村の実情にあった学校運営が行われれば、小学教育の普及に飛躍が生じるのは当然である。

1.3 湖北省陽新県の小学校入学率

表1は湖北省陽新県の小学校入学率を表している。耕読小学の設立が学齢期児童の小学校入学率の向上に決定的な意味をもっていたことが分かる。また大躍進期の農村教育運動が民弁小学の普及を通じて小学校入学率の1つのピークを築いていたことが明らかである。

同県の花果人民公社の1965年での小学校入学率は95.29%である。貧農・下層中農も94.77%ではあるが耕読小学設立以前は50%に達していなかった。

表1 湖北省陽新県の小学校入学率 (%)

| | 1956 | 1958 | 1963 | 1964 |
|---------|------|------|------|------|
| 公弁全日制小学 | 34 | 43 | 31 | 42 |
| 民弁全日制小学 | 3 | 11 | 11 | 17 |
| 耕 読 小 学 | | | | 21 |
| 合 計 | 37 | 54 | 42 | 80 |

(出典[1])

1.4 小学校の種類・数と小学校入学率について

1965年3月に開催された全国農村半農半読教育会議では、全日制小学と耕読小学の2本足で小学教育の普及を達成していくという方針と、耕読小学の普及によりこの任務はかなり早期に達成可能であるという見込みが明らかにされた。

1.5 知識青年の下放制度

下放制度は1960年代調整期全体を通じて推進された。63年半ばまでの都市人口の大量帰農と並行して、それ以降も都市知識青年は国营農場などに送り込まれていたが、下放制度がしだいに半強制的な性格を帯び、下放動員数が増加するにつれて、受け入れ先は人民公社に拡大されていった。

64年の中共中央・国務院による決定によると、「(「都市青年を動員・組織して農村社会主義建設に参加させることに関する決定(草案)」) 中共中央・国務院は今後長期間にわたって大量の知識青年を組織・動員して農村に下放させ、農業生産に従事させる必要があると考える、と記載されている。

また中央上山下郷知識青年安置弁公室の文件(「大・中都市の、企業から除籍された労働者・職員と青年学生を動員して、生産隊に下放配置させる具体方法に関する意見(草案)」)には、配置対象は生産年齢に達していながら進学することもできず、就労の可能な当該年度中学卒業生を主とする、と記載されている。

2 本稿の論述点

小学教育の普及は以前から進められてきていたが、1964年から推進された半農半読の教育制

度により、公弁および民弁の全日制小学のほかに半農半読の耕読小学校が設立され、さらに多様な教育形式が取り入れられて多くの農民の子弟にとって学校教育が受けやすい状況が広がっていった。表1の湖北省陽新県の小学校入学率の推移をみると、学校教育を受けやすい環境を提供することが入学率の上昇の大きな要因になっていたと考えられる。

一方で、増加する入学者に対応して教員を増加させる必要があったが、政治的要因により教師の一部は下放により農村などでの農業労働などに従事して教育現場から離れてしまい、教師の不足という事態が生じていたと思われる。一方で都市の知識青年が上山下郷で農村に送られていたので、知識青年の一部が耕読小学を含む多様な教育形式の教師の職に着くという環境は整えられていたと考えられる。そこで本稿では黒龍江省とその4つの県について、小学教育の普及状況と都市知識青年が教員として農村教育に貢献した可能性を、主に省志と県志を利用して明らかにすることを試みた。

表2 黒龍江省小学基本情况

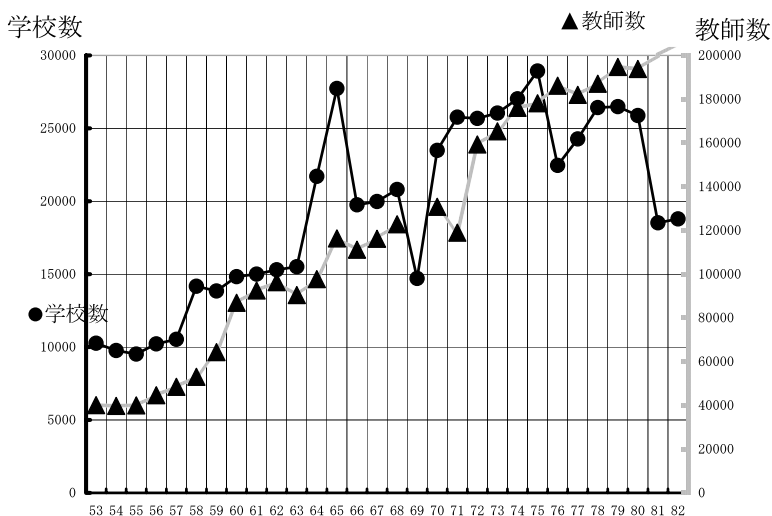
(単位：人)

| | 学校数 (所) | 教職工数 | 専任教師数 | 学齡児童数 (7-11歳) | 入学済みの 学齡児童数 | 学齡児童入学率 (%) |
|------|------------|--------|--------|------------------|----------------|----------------|
| 1953 | 10264 | 42709 | 40136 | 1379915 | 831813 | 60 |
| 54 | 9763 | 42662 | 39790 | 1441802 | 892378 | 62 |
| 55 | 9520 | 42938 | 40012 | 1514230 | 930016 | 61 |
| 56 | 10216 | 47162 | 44672 | 1879895 | 1234530 | 66 |
| 57 | 10531 | 51129 | 48492 | 1900227 | 1284916 | 68 |
| 58 | 14171 | 60000 | 53064 | 1912530 | 1746130 | 91 |
| 59 | 13846 | 72819 | 64358 | 2428115 | 2025418 | 83 |
| 60 | 14826 | 91237 | 86926 | 2700655 | 2278830 | 84 |
| 61 | 15005 | 97292 | 92554 | 2894034 | 2265569 | 78 |
| 62 | 15297 | 101760 | 96338 | 3153148 | 2353609 | 75 |
| 63 | 15506 | 103913 | 90433 | 3269000 | 2346000 | 72 |
| 64 | 21709 | 112016 | 97750 | 3395184 | 2823429 | 83 |
| 65 | 27730 | 127174 | 116325 | 3529784 | 3161925 | 90 |
| 66 | 19755 | 124855 | 111168 | | | |
| 67 | 19983 | 130354 | 116197 | | | |
| 68 | 20804 | 137299 | 122820 | | | |
| 69 | 14706 | 124847 | — | | | |
| 70 | 23486 | 141587 | 130785 | | | |
| 71 | 25765 | 143897 | 118975 | 3670750 | 3092980 | 84 |
| 72 | 25679 | 177888 | 159294 | 3819244 | 3388797 | 89 |
| 73 | 26044 | 188241 | 165307 | 3869018 | 3580617 | 93 |
| 74 | 27025 | 199910 | 176059 | 4036594 | 3821554 | 95 |
| 75 | 28932 | 204003 | 178128 | 3902830 | 3773743 | 97 |
| 76 | 22460 | 209289 | 186165 | 3939820 | 3808518 | 97 |
| 77 | 24273 | 209829 | 181980 | 3951088 | 3773312 | 96 |
| 78 | 26425 | 217179 | 187061 | 4066849 | 3869326 | 95 |
| 79 | 26489 | 219801 | 194726 | 4171722 | 3539497 | 85 |
| 80 | 25879 | 219961 | 193787 | 4178640 | 3950844 | 95 |
| 81 | 18521 | 228702 | 200155 | 4188926 | 4000744 | 96 |
| 82 | 18791 | 234519 | 205431 | 4102761 | 3952798 | 96 |

(出典[6]p.116-120)

(空欄はデータの欠如、未入手を表す)

図3 黒龍江省小学基本状況



3 黒龍江省の小学教育の普及

3.1 多様な形式の学校設立と小学教育の普及

[6] p.115-118によると、1953年-57年の黒龍江省の農村では、全日制小学、半日制小学、民弁小学などが設立されていた。58年の大躍進の時期には、山区、偏遠地区にも巡回小学、半日制小学、早班、晩班、農閑班などの多様な形式の学校・班（＝クラス）が設置され、省全体での小学校が急増した。64年には農村経済不発達地区、辺遠地区で積極的に耕読小学、簡易小学が設立された。これらの小学の中には全日班、半日班、農閑班などがあった。

表2および図3は、58年、64年-65年および69年に小学教育の基本状況に変化があったことを示唆している。一方で学齡児童入学率は順調に伸び、65年に90%を達成したあと70年代前半に再び90%に到達していることなど、省全体において建国以降、小学教育がほぼ順調に普及してきた。都市と農村の人口比率がほぼ1:2であったこと（表4参照）を考慮すると、都市部だけの普及ではなく農村部でも順調に普及してきたと考えられる。

65年に教育部は全国農村半農半読教育会議を開催し、全日制学校の維持・発展と同時に半農半読の教育制度を1つの教育革命と位置づけ、その発展を指示している¹⁾。また教育部は各地に、耕読小学・農業中学の発展の指示を出している²⁾。農村住民のなかでも特に貧農・下層中農の住民の子弟の教育に力を注いでいる。農村部のなかでも条件の良くない地域の住民は教育の機会が相対的に少なく、それを埋めるためには50年代にすでに実施した経験のある多様な教育形式を発展させることが有力な方法であったと思われる。

この新しい教育制度の発展指示に対応するように、黒龍江省での65年の各数値は63年と比べて大幅に上昇している。それに続いた66年以降71年までの約6年間についての統計データは、その信頼性に問題があり、教育の発展が継続したかどうかは判断が難しいが、72年の数値を見ると64年-65年に急速に発展して達成した数値をほぼ越える水準の数値になっている。

3.2 学校数・教師数・入学率

表2では65年の学校数が63年と比べて80%増加していて、その大部分が半農半読を代表とする多様な形式の学校の新たな設置によるものだと判断される。これらの学校が66年以降に継続されたかどうかは明らかではない。しかし「村村有学校、小学不離屯、中学不離公社」（各村には学校があり、屯内には小学校があり、公社内には中学校がある）という標語は教育普及の大きな達成目標であり、そのためには各屯に小学校を設置することが必要であり、これを実施するためには多様な教育形式を実施するのが有力な手段であり、既に64年—65年に広く実施された経験があるのだから、71年以降もその経験を活かして教育の普及が図られても不思議ではない。

3.3 人民公社と国営農場の知識青年

知識青年の下郷は動員された地区により下郷先に一定の傾向があり³⁾ 省内の県の知識青年の下郷先は県内の人民公社であり、省内の大都市の知識青年の下郷先は近郊の県、遠く離れた県または国営農場であり、省外の大都市の知識青年の下郷先は主に国営農場であるという傾向があった。表4は下郷先での知識青年数の対人口比率を示している。国営農場に下郷した知識青年は、農場内に同じ知識青年が比較的多く生活していたのにならして、人民公社に下郷した知識青年は必ずしもそのような状況で生活していたわけではなく、そのため知識青年が人民公社内で果たすべき役割は、国営農場内で果たすべき役割と比べると相対的に小さく、したがって地域社会への貢献という点でも相対的に小さかったと推測される。そして知識青年が民弁教師の職を得るためには地域社会からの支持が一般的に必要であったと仮定すると、農村で民弁教師が不足していたとしても、国営農場での場合に比べて人民公社に下郷した知識青年の多くがすぐにその職を得ることは必ずしも容易であったとは思われない。

表4 一般農村と国営農場の知識青年下郷/人口比率（単位 万人）

| | 人 口 | | 知識青年下郷総数 1963-78年 | 下郷総数/人口 1975年 |
|-------|---------------|---------------|----------------------|------------------|
| | 1965年 | 1975年 | | |
| 省 | 2134 | 2958 | | |
| 市 鎮 | 806 | 1079 | | |
| 農 村 | 1328 | 1879 | | |
| ：一般農村 | 1229 (93%) | 1700 (90%) | 115 | 115/1700 = 7% |
| ：国営農場 | 99 (7%) | 179 (10%) | 68 | 68/179 = 38% |

(出典[7]p.559、[8]p.314、[9]p.142)

4 各県の小学教育の普及

4.1 木蘭県

[11]p.98-99、p.579-580によると、1964年-65年に木蘭県では145の耕読小学(うち公弁小学30)が設立され、学齢児童入学率87%が達成された。70年には民弁教師が増加し、農村労働2年以上の知識青年が教師に登用された。教育の普及が拡大し、72年に小学校は306所に発展し(そ

の内、174 所の下伸点⁴⁾を含んでいる)、「村村有学校、小学不離屯、中学不離公社」という目標がほぼ達成された。72 年の時点で全教師のうち、5 年以上の教師歴がある教師は 41% (1003 人)、未滿は 59% (1342 人)であった。即ち 67 年以降に教員になった人が半数を越え、小学校に限れば同様またはそれ以上の傾向が強かったと思われる。表 5 のデータを見ると⁵⁾、69 年以降の教職工数の増加情況から、知識青年が人民公社内の民弁教師の職を得る機会は少なくなかったと思われる。また 73 年には多種類の形式の班が設立されるようになり、民弁教師の必要性はより高まっていたと思われる。

表 5 木蘭県小学教育發展情況 (単位：所, 数, 人)

| | 小学校数 | | 班数 | 在校生数 | 学齡兒童入学率 | 教職工数 | 民弁教師数 | 民弁教師/教職工数 | 下郷知識青年数 | |
|--------|-------|-----|------|-------|---------|------|-------|-----------|---------|------|
| | 小学校 | 下伸点 | | | | | | | 県内 | 哈爾濱市 |
| 1949 | 102 | | 220 | 9115 | | 152 | | | | |
| 50 | 112 | | 221 | 11418 | | 272 | | | | |
| 51 | 111 | | 285 | 11614 | | 349 | | | | |
| 52 | 120 | | 315 | 10139 | | 375 | | | | |
| 53 | 114 | | 320 | 10396 | | 424 | | | | |
| 54 | 107 | | 305 | 9374 | | 416 | | | | |
| 55 | 109 | | 300 | 9981 | | 426 | | | | |
| 56 | 124 | | 341 | 12454 | | 438 | | | | |
| 57 | 120 | | 353 | 12634 | | 460 | | | | |
| 58 | 122 | | 211 | 15766 | 96% | 557 | | | | |
| 59 | 135 | | 552 | 21219 | | 665 | 107 | 16% | | |
| 60 | 145 | | 560 | 23061 | 91% | 774 | | | | |
| 61 | 149 | | | 25525 | | 786 | | | | |
| 62 | 160 | | 668 | 24156 | | 923 | | | | |
| 63 | 172 | | 663 | 20851 | | 916 | | | | |
| 64 | 280 | | 785 | 23808 | | 978 | | | 168 | |
| (耕讀小学) | (145) | | | | | | | | | |
| 65 | 161 | | 664 | 25574 | 87% | 1046 | | | 207 | |
| 66 | 321 | | | 27107 | | 1089 | 317 | 29% | 142 | |
| 67 | 321 | | | 29032 | | 1197 | | | | |
| 68 | 299 | | 421 | 32342 | | 1092 | | | 431 | 44 |
| 69 | 140 | | 888 | 27536 | | 1238 | 520 | 42% | 18 | 466 |
| 70 | 230 | | 935 | 29139 | | 1226 | | | 56 | |
| 71 | 298 | | 1000 | 30991 | | 1085 | | | | |
| 72 | 306 | | 1085 | 34419 | 94% | 1490 | | | | |
| 73 | 311 | | 1116 | 34559 | | 1542 | | | 247 | |
| 74 | 330 | | 1167 | 33978 | 98% | 1646 | | | 659 | 704 |
| 75 | 361 | | 1191 | 36241 | | 1597 | | | 639 | 238 |
| 76 | 383 | | 1685 | 37455 | | 1779 | 858 | | 596 | 120 |
| 77 | 255 | | 1192 | 36269 | | 1668 | | | 488 | |
| 78 | 338 | | 1206 | 36124 | | 1685 | | | | |
| 79 | 339 | | 1251 | 39863 | | 1761 | | | | |
| 80 | 164 | 180 | 1318 | 38391 | | 1826 | | | | |
| 81 | 163 | 174 | 1312 | 38977 | | 1924 | | | | |
| 82 | 167 | 165 | 1331 | 38208 | | 1836 | | | | |

(出典[10]p.438、[11]p.101-103、p.624)

(空欄はデータの欠如、未入手を表す)

4.2 五常県

表6を見ると⁶⁾、1960年前後の学校数の多さと民弁小学の多さが顕著である。また64年に耕読小学は114所設立され、耕読教師は143人いた。即ち平均すると、1つの耕読小学に1.3人の

表6 五常県小学教育発展情況 (単位：所, 数, 人)

| | 小学校数 | | | 班数 | 学生数 | | 学齡児童 入学率 | 教職工数 | | | 下郷知識 青年数 |
|------------|------|-----|-------|-------|--------|--------------------|-------------|------|-------------|----------|-------------|
| | 合計 | 公弁 | 民弁 | | 合計 | 合計 | | 合計 | 公弁 小学 | 民弁 小学 | |
| 1949 | 292 | 292 | | 714 | 35187 | | | 864 | 864 | | |
| 50 | 343 | 343 | | 822 | 38261 | | | 989 | 989 | | |
| 51 | 318 | 318 | | 884 | 40785 | | | 1284 | 1284 | | |
| 52 | 326 | 326 | | 984 | 44519 | | | 1383 | 1383 | | |
| 53 | 332 | 332 | | 1090 | 48012 | | | 1521 | 1521 | | |
| 54 | 336 | 336 | | 1129 | 48530 | | | 1537 | 1537 | | |
| 55 | 332 | 332 | | 1146 | 48127 | | | 1539 | 1539 | | |
| 56 | 309 | 308 | | 1282 | 54939 | | | 1622 | 1606 | | |
| 57 | 328 | 314 | 13 | 1314 | 56980 | 65% | | 1692 | 1652 | 26 | |
| 58 | 445 | 309 | 133 | 1729 | 69875 | 95% | | 2076 | 1598 | 413 | |
| 59 | 475 | 313 | 150 | 2195 | 94481 | | | 2562 | 1687 | 771 | |
| 60 | 557 | 302 | 240 | 2413 | 103098 | | | 2931 | 1900 | 865 | |
| 61 | 503 | 309 | 176 | 2292 | 86873 | | | 2928 | 2089 | 640 | |
| 62 | 417 | 320 | 79 | 2097 | 81871 | 74% | | 2844 | 2119 | 570 | |
| 63 | 393 | 312 | 62 | 2169 | 80099 | 75% | | 2756 | 2055 | 507 | |
| 64 | 512 | 326 | 166 | 2419 | 91024 | 83% | | 3098 | 2167 | 747 | |
| (耕読 小学) | | | (114) | (152) | (4020) | | | | | (143) | |
| 65 | 381 | 328 | 32 | 2302 | 90944 | 91% | | 2959 | 2273 | 502 | |
| 66 | 495 | 450 | | 2672 | 113684 | | | 2948 | 2741 | | |
| 67 | 512 | 465 | | 2685 | 114674 | | | 3214 | 2988 | | |
| 68 | 538 | 488 | | 2682 | 114630 | | | 3450 | 3208 | | |
| 69 | 633 | 620 | | 2795 | 95233 | | | 3315 | 3136 | | |
| 70 | 646 | 631 | | 2930 | 96072 | | | 3525 | 3231 | | |
| 71 | 656 | 623 | | 3063 | 97448 | | | 3668 | 1664 | 1666 | |
| 72 | 663 | 632 | | 3313 | 121862 | | | 4207 | 1909 | 1896 | |
| 73 | 720 | 689 | | 3370 | 123784 | | | 4555 | 2088 | 2087 | |
| 74 | 696 | 651 | | 3456 | 126971 | | | 4658 | 2132 | 2184 | |
| 75 | 765 | 738 | | 3570 | 133811 | | | 5078 | 2164 | 2529 | |
| 76 | 515 | 503 | | 3585 | 130340 | | | 4643 | 1836 | 2477 | |
| 77 | 788 | 756 | | 3577 | 138807 | | | 5292 | 2255 | 2559 | |
| 78 | 724 | 685 | | 3575 | 128420 | (県鎮)99% (農村)92% | | 5649 | 2593 | 2586 | |
| 79 | 696 | 664 | | 3680 | 132048 | (県鎮)99% (農村)93% | | 5707 | (民弁教師 2607) | | |
| 80 | 684 | 661 | | 3732 | 134873 | (県鎮)99% (農村)92% | | 5543 | (民弁教師 2506) | | |
| 81 | 430 | 403 | | 3830 | 137246 | (県鎮)99% (農村)94% | | 5788 | (民弁教師 2810) | | |
| 82 | 453 | 410 | | 3790 | 135151 | (県鎮)99% (農村)95% | | 5635 | (民弁教師 2620) | | |

64年-79年
県内
8007人
県外省内
5587人
省外
336人

(出典 [12]p.614、[13]p.22-23、p.93-97、p.563-573)

(空欄はデータの欠如、未入手を表す)

耕読教師がいて各教師が1つの班を担当し、その班には26人の小学生がいたことになる。耕読小学の規模の小ささを表していると思う。70年前後に学生数は減少したが、72年以降は全ての面で教育状況は発展し、特に71年から74年の3年間に教職工数は27%増加し、実数で1133人増えている。またその時期の公弁と民弁の教師はほぼ同数または民弁教師のほうが多く、知識青年が教師の職を得るよい機会があったと考えられる。一方で、66-76年の10年間は教育質量が低下し、名義上小学卒業生でも実質上は小学3-4年級程度に及ばなかったという指摘がなされている⁷⁾。

4.3 龍江県

[14] p.506-507、[15] p.102-108によると、1964年に民弁の多様な形式の耕読小学が76所設立された。72年には民弁小学校が205あり、これは全小学校のうち38%にあたる。75年にも全小学のうち1/3以上が民弁小学であった。また教職工数については71年から76年の5年間に46%増加し、実数で1081人増えている。一方で、64年から78年の間に下郷した知識青年数は合計で13219人であるが、そのうちで民弁教師になったのは123人であった。即ち龍江県では知識青年以外の人が多く民弁教師になり教育に携わったことになる。

表7 龍江県小学基本情况 (単位：所、数、人)

| | 小学校数 | 班数 | 在校生数 | 学齡兒童入学率 | 教職工数 | 下郷知識青年数 |
|--------|-----------------|------|-------|---------|------|--|
| 1949 | 395 | 719 | 35240 | | 830 | |
| 50 | 406 | 785 | 40337 | | 896 | |
| 51 | 437 | 868 | 42425 | | 1097 | |
| 52 | 418 | 998 | 39733 | | 1150 | |
| 53 | 392 | 1257 | 49568 | | 1395 | |
| 54 | 266 | 704 | 27379 | | 869 | |
| 55 | 259 | 693 | 27690 | 70% | 842 | |
| 56 | 284 | 780 | 38339 | | 971 | |
| 57 | 301 | 813 | 39474 | | 1048 | |
| 58 | 313 | 789 | 26883 | 95% | 1061 | |
| 59 | 254 | 1040 | 47116 | | 1016 | |
| 60 | 380 | 1103 | 53495 | | 1537 | |
| 61 | 375 | 1291 | 43597 | | 1548 | |
| 62 | 351 | 1373 | 48440 | | 1722 | |
| 63 | 350 | 1300 | 45604 | | 1485 | |
| 64 | 426 | 1463 | 58384 | 82% | 1668 | |
| (耕読小学) | (76) | | | | | |
| 65 | 661 | 2167 | 68521 | | 2233 | 64-78年 県内 10020人 県外省内 2100人 省外 1099人 |
| 66 | 444 | 1152 | 45760 | | 1489 | |
| 67 | 444 | 1221 | 51692 | | 2317 | |
| 68 | 413 | 1266 | 52491 | | 2351 | |
| 69 | 528 | 1417 | 58879 | | 2250 | |
| 70 | 386 | 1089 | 35006 | | 1409 | |
| 71 | 511 | 1861 | 69434 | | 2330 | |
| 72 | 541 (民弁 205) | 1929 | 73437 | | 2519 | |
| 73 | 542 | 2088 | 77925 | | 2772 | |
| 74 | 584 | 2209 | 84945 | | 3005 | |

| | | | | | | |
|----|-----|------|-------|--|------|--|
| 75 | 668 | 2322 | 91778 | | 3242 | |
| 76 | 507 | 2417 | 93303 | | 3411 | |
| 77 | 481 | 2399 | 90410 | | 3498 | |
| 78 | 650 | 2428 | 89171 | | 3385 | |
| 79 | 640 | 2460 | 88921 | | 3507 | |
| 80 | 629 | 2542 | 94925 | | 3660 | |
| 81 | 604 | 2596 | 91342 | | 3952 | |
| 82 | 609 | 2623 | 91611 | | 4026 | |

(出典[14]p.506、[15]p.107-108)

(空欄はデータの欠如、未入手を表す)

4.4 泰来県

1965年に耕読小学は172所設立され、耕読教師は196人いた。即ち平均すると、1つの耕読小学に1人の耕読教師がいて2つの班があり、1つの班には18人の小学生がいたことになる。高級小学は大隊の範囲内で、初級小学は屯の範囲で、登校距離は一般には2華里(1km)を越えないようにするという目的が掲げられているが、目標は達成されていなかったと思われる。70年には56名の小学教師が下放し農村に挿隊して定住した。また工農兵と下郷回郷知識青年が1000名兼職教師となっている⁸⁾。

表8 泰来県小学教育発展情況 (単位：所、数、人)

| | 学校数 | 班数 | 在校生数 | 学齢児童入学率 | 普通小中学・農村職業中学教職工数 | | 下郷知識青年数 |
|--------|-------|-------|--------|---------|----------------------------|-----|---------|
| | | | | | 合計 | 民弁 | |
| 1949 | 122 | | 11156 | | 291 | | |
| 50 | 135 | | 15239 | | 356 | | |
| 51 | 150 | 153 | 18157 | | 383 | 66 | |
| 52 | 148 | 210 | 17378 | | 426 | 60 | |
| 53 | 126 | 411 | 19897 | | 491 | 13 | |
| 54 | 150 | 467 | 20013 | | 646 | 13 | |
| 55 | 150 | 469 | 20836 | | 639 | 15 | |
| 56 | 152 | 564 | 25142 | | 766 | 15 | |
| 57 | 158 | 572 | 24441 | | 723 | 101 | |
| 58 | 153 | 533 | 29339 | | 831 | 287 | |
| 59 | 215 | 858 | 34323 | | 978 | 357 | |
| 60 | 221 | 928 | 39120 | | 1146 | 386 | |
| 61 | 252 | 974 | 35777 | | 1115 | 387 | |
| 62 | 252 | 1012 | 35537 | | 1397 | 316 | |
| 63 | 239 | 1022 | 34645 | | 1280 | 388 | |
| 64 | 362 | 1340 | 41469 | | 1278 | 385 | 310 |
| 65 | 483 | 1426 | 45058 | | 1395 | 530 | 84 |
| (耕読小学) | (172) | (364) | (6670) | | 小学教職工 1582 (内、耕読教師 196) | | |
| 66 | 483 | 1426 | 45058 | | 1397 | 530 | 12 |
| 67 | 92 | | 45058 | | 1397 | 530 | 417 |
| 68 | 92 | 1104 | 36851 | | 1699 | 523 | 199 |
| 69 | 326 | 1104 | 36851 | | 1699 | 523 | 144 |
| 70 | 322 | 1113 | 40991 | | 1600 | 609 | 522 |

| | | | | | | | |
|----|-----|------|-------|-----|------|------|-----|
| 71 | 325 | 1179 | 43270 | | 1686 | 828 | |
| 72 | 325 | 1255 | 45204 | | 1764 | 915 | 121 |
| 73 | 342 | 1361 | 51240 | 93% | 1568 | 925 | 239 |
| 74 | 283 | 1467 | 52789 | 97% | 1848 | 1080 | 687 |
| 75 | 330 | 1511 | 53061 | 98% | 1852 | 1167 | 948 |
| 76 | 308 | 1511 | 51544 | | 1965 | 1194 | 781 |
| 77 | 269 | 1418 | 50064 | | 2016 | 1224 | 743 |
| 78 | 360 | 1433 | 49934 | | 2056 | 1236 | 145 |
| 79 | 372 | 1444 | 51274 | | 2095 | 1195 | |
| 80 | 408 | 1489 | 51693 | | 2093 | 1202 | |
| 81 | 299 | 1571 | 53757 | | 2077 | 1181 | |
| 82 | 304 | 1565 | 53416 | | 2128 | 1200 | |

(出典[16]p.453、[17]p.827-832)

(空欄はデータの欠如、未入手を表す)

5 結論

黒龍江省では主に1950年代後半から多様な学校形式を採用することにより小学教育の普及が図られていて、民弁小学などが設立されていた。1964年には半農半読制度と耕読小学の発展が図られ、広範囲な地域に小学教育が一時的ではあるが普及した。それまでは学校へのアクセスが遠いために学校教育を受けないでいた児童も、教師が1人だけの耕読小学が自分の住む屯に設置されることがあり、教育を受ける機会が広がった。小学教育の普及と教育の質の向上は限られた資源などの制約のために両立は困難だったが、都市部の資源を農村部に移動させ教育を普及させ、社会全体としての教育水準の向上という点では、一定の効果があった可能性がある。また人民公社に下郷した知識青年の一部は民弁教師となり農村の教育に貢献したが、知識青年以外の農村住民も民弁教師として農村教育を担ったと思われる。

注

1) [5]

2) [18] p.11

3) 表9は62年-79年の間の下郷知識青年について、動員地区と下郷先の人数を表している。黒龍江省に下郷した知識青年183万人のうち、142万人は省内で動員され、40万人が省外で動員されている。省内で動員された青年のうち76%は人民公社などの一般農村に下郷し、24%が国営農場に下郷した。また省外で動員された知識青年の85%は国営農場に下郷している。

表9 知識青年の動員下郷先 (単位 万人)

| 動員地区 / 下郷単位 | 総数 | 一般農村 | 国営農場 |
|-----------------------|--------|--------|-------|
| 合計 | 182.57 | 114.63 | 67.94 |
| 省内地区*1 | 142.27 | 108.43 | 33.84 |
| ：哈尔滨*2 | 31.63 | 16.15 | 15.48 |
| ：その他の市県*3 | 110.64 | 92.28 | 18.36 |
| 省外5地区(北京,天津,上海,浙江,四川) | 40.3 | 6.2 | 34.1 |

(出典 [3]p.304、[4]p.180、p.183、[9]p.142、[19]p.42)

*1 1963年-1978年の数値

*2 1968年-1979年の数値

*3 (省内地区-哈尔滨)の値

- 4) 大隊の学校が、所轄する屯に設置する初級小学班のことを下伸点という。一般に1、2年級のみで1つまたは2つの班がある。([11] p.98)
- 5) 文化大革命終了後、大部分の屯級小学は村級小学の下伸点に改変され、小学校は減少し下伸点は増加した。
([11] p.99) また79年以前は下伸点を学校数の中に入れていたが、80年以降は学校数には含めていない。
- 6) 66年以降の小学校数は、それまでの民弁をすべて公弁として集計されているが、一方で同じ教育志に教職工数についての表が掲載されていて、そこでは公弁と民弁とに分けられている。
- 7) [13] p.24
- 8) [17] p.177

参考文献

- [1] 山本恒人「1960年代における労働・教育・下放の三位一体的政策展開とその破産」『現代中国の挫折』第3章、アジア経済研究所、1985年
- [2] 関海庭「文化大革命中知識青年上山下郷運動述論」『当代中国史研究』、1995年5期
- [3] 顧洪章「中国知識青年上山下郷始末」中国檢察出版社、1997年
- [4] 劉小萌「中国知青史-大潮」中国社会科学出版社、1998年
- [5] 「人民日報」1965年5月30日
- [6] 「黒龍江省志・教育志」黒龍江人民出版社、1996年
- [7] 「黒龍江省志・国营農場志」黒龍江人民出版社、1992年
- [8] 「黒龍江省志・人口志」黒龍江人民出版社、1996年
- [9] 「黒龍江省志・労働志」黒龍江人民出版社、1995年
- [10] 「木蘭県志」黒龍江人民出版社、1989年
- [11] 「木蘭県教育志」黒龍江教育出版社、2003年
- [12] 「五常県志」黒龍江人民出版社、1989年
- [13] 「五常県教育志」1985年
- [14] 「龍江県志」中国城市経済社会出版社、1991年
- [15] 「龍江県教育志」1988年
- [16] 「泰来県志」黒龍江人民出版社、1992年
- [17] 「泰来県教育志」黒龍江人民出版社、2000年
- [18] 「安徽教育」1966年3期
- [19] 「哈尔滨市志・労働人事檔案」黒龍江人民出版社、1997年